

サレジアン国際中学校高等学校 令和7年度 シラバス

学年/コース	中学1年	教科/科目	数学/代数	時間数	3時間/週
1学期					
単元名	第1章 正の数・負の数			使用教材	
単元の概要	(1)負の数を導入して、扱える数の範囲を拡張し、その性質や計算の特徴などを理解する。 (2)日常生活で負の数がどのように利用されているかを知り、負の数の必要性を理解する。 (3)文字を導入することで、数式の利便性を理解する。			システム数学 代数1	
評価規準			単元内容		
極	A3 4項以上ある正負の有理数と文字式の四則演算を、分配法則と結合法則を活用し、正確に解答を導ける。	B3 指数法則を負の数まで拡張して活用し、計算することができる。	C3 自分で調べたことをレポートにまとめ、わかりやすくプレゼンすることができる。	・正の数・負の数で量を表す ・正の数・負の数の大小 ・正の数と負の数の加法減法 ・加法と減法の混じった計算 ・正の数と負の数の乗法除法 ・乗法と除法の混じった計算 ・いろいろな計算 ・数の世界のひろがり	
活	A2 3項までの正負の有理数、文字式の四則演算において、正確に解答を導ける。	B2 素因数分解を用いて、自然数の約数の個数を求められる。	C2 自ら文献などを調べ、正負の数や素数について研究し、理解を深めることができる。		
礎	A1 負の数を含む量に興味をもち、負の数を含む簡単な四則計算や累乗を含む計算を行うことができる。 文字式を規則に基づいて運用できる。	B1 素数の定義を理解し、素因数分解を正確に行える。 今まで学んだ公式を文字式で表現できる。	C1 正負の数に関する問題を自ら作成し、わかりやすく説明することができる。		
	知性	応用	思考力		

サレジオン国際中学校高等学校 令和7年度 シラバス

学年／コース	中学1年	教科／科目	数学/代数	時間数	3時間／週
1学期					
单元名	第2章 式の計算			使用教材	
単元の概要	(1)文字を使った式に関して、計算の手法を学び、身につける。 (2)いろいろな事柄を文字式を利用して表現する力を身につける。			システム数学 代数1	
評価規準			单元内容		
極	A3 文字式が表すことを、実例に即した表現に言い換えられる。 4項以上の単項式と多項式の計算を正確に行える。	B3 どのような時に文字式が必要かを判断することができる。また、それに基づき様々な現象と過程を式で表現できる。	C3 自ら文献などを調べ、文字式についての研究を行い、わかりやすくプレゼンできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・数量を文字で表すこと ・文字式の表し方 ・図形と文字式 ・式の値 ・文字式の加減乗除 ・文字式と数の乗法除法 ・単項式の乗除 ・文字式の利用 	
活	A2 単項式と多項式の計算を適切に行える。	B2 式の値を求める際に工夫ができる。	C2 身近にある事柄を文字式を用いて表現したり、文字式で表せないか検証したりすることができる。		
礎	A1 文字式の利便性を理解できる。	B1 式の値を正確に求められる。	C1 文字式に関する問題を作成し、わかりやすく説明することができる。		
				〈留意点・評価〉	
				<p>〈評価について〉</p> <p>定期考査は、代数と幾何の2種類を実施する。各学期の評価は、代数と幾何の成績を合わせて「数学」として評価を行う。</p> <p>代数を60%、幾何を40%に圧縮しこれらを加えて、「数学」の点数とする得られた点数(最高は100点)により、各学期の10段階評価(学年末は評定)を行う。</p>	
	知性	応用	思考力		

サレジアン国際中学校高等学校 令和7年度 シラバス

学年/コース	中学1年	教科/科目	数学/代数	時間数	3時間/週
2学期					
単元名	第3章 方程式			使用教材	
単元の概要	(1) 方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解する。 (2) 一元一次方程式を具体的な場面で活用する。 (3) 連立方程式を様々な場面で活用する。			システム数学 代数1	
評価規準			単元内容		
極	A3 複数の文字が入った方程式の問題について、何を求めることが必要かを判断し、正確に求めることができる。	B3 抽象的な事象に対して、方程式を立式し、解を求め、その意味を説明することができる。	C3 文献を調べ、方程式の歴史などの高度な内容に踏み込み、レポートにまとめたり、発表したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式とその解 ・方程式の解き方 ・方程式の利用 ・等式の変形 ・比と比例式 ・比の利用 ・連立方程式とその解 ・連立方程式の解き方 ・連立方程式の利用 	
活	A2 一次方程式の解を正確に求めることができる。	B2 B1で得られた方程式を解くことができ、得られた解の吟味を適切に行える。	C2 身近にある事柄に目をつけ、自ら文章題を作成し、わかりやすく説明できる。		
礎	A1 等式の性質を理解できる。	B1 身近な現象を、方程式で表現できる。	C1 与えられた数を解に持つ方程式を作成することができる。		
				〈留意点・評価〉	
				<p>〈評価について〉 定期考査は、代数と幾何の2種類を実施する。各学期の評価は、代数と幾何の成績を合わせて「数学」として評価を行う。 代数を60%、幾何を40%に圧縮しこれらを加えて、「数学」の点数とする 得られた点数(最高は100点)により、各学期の10段階評価(学年末は評定)を行う。</p>	
	知性	応用	思考力		

サレジアン国際中学校高等学校 令和7年度 シラバス

学年/コース	中学1年	教科/科目	数学/代数	時間数	3時間/週
2学期					
単元名	第4章 不等式			使用教材	
単元の概要	(1)文字を含んだ不等式から文字の値の範囲を求める方法を学ぶ。 (2)2つの不等式を同時に成り立たせる値の範囲について考える。			システム数学 代数1	
評価規準			単元内容		
極	A3	B3	C3	<ul style="list-style-type: none"> ・不等式とその性質 ・不等式の解き方 ・連立不等式 ・不等式・連立不等式の利用 	
	複数の文字が入った不等式の問題について、何を求めることが必要かを判断し、正確に求めることができる。	抽象的な事象に対して、不等式を立式し、解を求め、その意味を説明することができる。	文献などを調べ、より高度な関数の分野を研究し、身につけることができる。また、それを発表できる。		
活	A2	B2	C2		
	一次不等式の解を正確に求めることができる。	B1で得られた不等式を解くことができ、得られた解の吟味を適切に行える。	様々な事象に隠れた関数の関係を考察し、文章にまとめ、発表することができる。		
礎	A1	B1	C1	〈留意点・評価〉	
	不等式の性質を理解できる。	身近な現象を、不等式で表現できる。	不等式に関する問題を自ら作成し、わかりやすく解説することができる。	<p>〈評価について〉</p> <p>定期考査は、代数と幾何の2種類を実施する。各学期の評価は、代数と幾何の成績を合わせて「数学」として評価を行う。</p> <p>代数を60%、幾何を40%に圧縮しこれらを加えて、「数学」の点数とする</p> <p>得られた点数(最高は100点)により、各学期の10段階評価(学年末は評定)を行う。</p>	
	知性	応用	思考力		

サレジアン国際中学校高等学校 令和7年度 シラバス

学年／コース	中学1年	教科／科目	数学/代数	時間数	3時間／週
3学期					
単元名	第5章 一次関数			使用教材	
単元の概要	(1)関数関係、比例、反比例、座標の意味を理解する。 (2)比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだす。			システム数学 代数1	
評価規準			単元内容		
極	A3 比例定数が変化するときのグラフの様子を適切に説明できる。	B3 現在の変化が未来にどのような影響を及ぼすか、2変数の時に説明することができる。	C3 文献などを調べ、より高度な関数の分野を研究し、身につけることができる。また、それを発表できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・関数 ・比例 ・比例のグラフ ・反比例とそのグラフ ・比例反比例の利用 	
活	A2 2変数の関係を式に表現することができる。	B2 B1で得られた式から、未来がどのようなようになるかを、論理的に予測できる。	C2 様々な事象に隠れた関数の関係を考察し、文章にまとめ、発表することができる。		
礎	A1 用語の定義を正しく理解している。	B1 身近な2変数の例を見つけ、それを式で表すことができる。	C1 比例と反比例関する問題を自ら作成し、わかりやすく解説することができる。		
				〈留意点・評価〉	
				<p>〈評価について〉 定期考査は、代数と幾何の2種類を実施する。各学期の評価は、代数と幾何の成績を合わせて「数学」として評価を行う。 代数を60%、幾何を40%に圧縮しこれらを加えて、「数学」の点数とする 得られた点数(最高は100点)により、各学期の10段階評価(学年末は評定)を行う。</p>	
	知性	応用	思考力		